

英語の与格交替をどう教えるか

——認知的アプローチの試み——

高橋直子

1. はじめに

英語の与格構文とは、以下の (1a) や (2a) で示すような直接目的語としての名詞句と *to* や *for* などの前置詞を伴った前置詞句を、動詞句内に含んだ構文である。与格構文の中でも (1a) のような前置詞の *to* を伴う構文は「*to* 与格構文 (*to*-dative construction)」、そして (2a) のような前置詞の *for* を伴う構文は「*for* 与格構文 (*for*-dative construction)」と呼ばれている。

一方、二重目的語構文とは、(1b) や (2b) のような動詞句内に2つの目的語を持っている構文である。そして (1a) と (1b)、(2a) と (2b) との間の構文の交替は「与格交替」と呼ばれている。

- (1) a. John gave a book to Mary.
- b. John gave Mary a book.
- (2) a. John bought a bag for Mary.
- b. John bought Mary a bag.

言語学の諸分野では、幾つかの制約の存在を示唆しながら、*give* や *buy* を含む二重目的語構文が前置詞句を伴った与格構文と基本的に交替が可能であることについてこれまで数多くの研究がされてきた (Larson (1988)、Baker (1988)、Gropen (1989)、岸本 (2001)、Goldberg (1992)などを参照)。

また、英語教育の現場でも長年に渡ってこの与格交替の現象を扱ってき

た。しかしその現場では、与格構文に現れる個々の動詞がどのような前置詞句を選ぶかについては、今も個々のケースを暗記する方法が主に取られているのではないだろうか。その一方で、前置詞の選択については、言語学的には give 型の動詞は三項動詞、buy 型の動詞は二項動詞と呼ばれ、認知的に to あるいは for を選択できるという説明が可能である（久野・高見 2005）。

この論文はこの久野・高見による認知言語学的分析と英語教育の関係に焦点を当てた。そして久野・高見による説明が英語学習者の与格交替における前置詞の習得をどのように助けるかを検証するために、パイロットスタディとして行なった実験の内容をまとめたものである。¹

この実験は、2010年11月に名古屋外国語大学外国語学部英米語学科の1年生と2年生の学生を対象に行なった。そしてデータ処理の段階で信頼できるデータのみを抽出し、TOEICのスコアを基にした100人分の結果を分析の対象とした。そして、そのTOEICのスコア別のグループにおいて与格交替における前置詞の習得率がどの程度上がったか実験の結果をまとめ、得られたデータを考察していく。

以下、第2節では久野・高見の分析を紹介する。そして久野・高見が to 与格構文と for 与格構文の相違を認知的アプローチを使ってどのように説明しているかを議論する。第3節ではこの実験の手順を説明する。第4節では実験結果をまとめ、第5節でその結果を考察していく。最後に第6節でこれまでの議論、今後の展望をまとめる。

2. 久野・高見（2005）の分析

英語学習では一般的に（1）のような交替をする動詞は give 型動詞、（2）のような交替をする動詞は buy 型動詞と呼ばれ、構文が二重目的語構文から与格構文に書き替える場合に、to か for のどちらかを選ぶか覚えることを強いられる。一方、久野・高見（2005）によると、これらの動詞は、基本的な意味が異なるために異なる前置詞を選択するので、動詞の基本的な意

味を理解すれば、それぞれの動詞がtoかforのどちらかを選ぶか盲目的に暗記する必要はないとしている。以下に (1) と (2) のデータをもう一度示す。

- (1) a. John gave a book to Mary.
- b. John gave Mary a book.
- (2) a. John bought a bag for Mary.
- b. John bought Mary a bag.

久野・高見は、両タイプの動詞は認知言語学的にはどのような点で異なるか、次のように分析している。give型、つまりto与格構文に出現する動詞は、人(X)が誰か(Y)にある対象物(Z)を移動させることを表す「対象物移動動詞」と呼んでいる。例えば、give型の動詞であるgive、lend、pass、pay、sell、send、mail、throw、tell、bring、take、carryなどの動詞が示唆する事象を考えてみると、どの動詞もある人が何かを誰かに移動させるようにしている。そして、give型の動詞はこれら3つの要素、つまり人(X)、誰か(Y)、そして対象物(Z)を指し示す名詞句を必要とする動詞であり、このような動詞を「三項動詞」と呼んでいる。そして、ある対象物(Z)が、(X)から(Y)へ移動することを表し、(Y)が対象物の移動先になるので、前置詞toを選択すると論じている。

一方、make、build、cook、buy、getなどのbuy型の動詞、つまりfor与格構文に出現する動詞は、ある人(X)がある行為を行うことを示す「行為動詞」として、3つの要素である人(X)、誰か(Y)、そして対象物(Z)の内(Y)を必ずしも必要とせず、(3)が示すように、主語と目的語だけで適格な文として成立できるとしている。

- (3) a. John bought a bag.
- b. John cooked fish.

- c. John built a house. (久野・高見 2005:117)

従って、give型の動詞が「三項動詞」であるのに対し、buy型の動詞は「二項動詞」と呼ばれている。しかしながら一般社会では、例えばある人が鞆を買うのが自分のためだけでなく誰か人にあげるためであったりする場合がある。その場合、受益者はforで表され前置詞forを取るとしている。

さらに久野と高見（2005:115）は、これらの議論を（4）と（5）のようにまとめている。また、（6）には久野・高見（2005:115）による give型動詞、buy型動詞のそれぞれの例を示した。

(4) **Give型動詞** = 三項動詞 = **to**が付く構文

- a. John gave a book Mary.
- b. John gave a book to Mary.
- c. * John gave to Mary.
- d. * John gave a book.

(5) **Buy型動詞** = 二項動詞 = **for**が付く構文

- a. John bought Mary a book.
- b. John bought a book.
- c. John bought a book for Mary.

(6) A: **Give型動詞**

- a. 授与動詞 give, lend, pass, pay, sell, serve, lease, …
- b. 送付動詞 send, mail, ship, forward, post, …
- c. 投与動詞 throw, pitch, hurl, kick, toss, …
- d. 伝達動詞 tell, read, write, telephone, teach, …
- e. 運搬動詞 bring, take, carry, drag, …
- f. 将来の所有動詞 promise, assign, leave, …

B: Buy型動詞

- a. 創造動詞 make, build, cook, knit, bake, fix, pour, sew, arrange, …
- b. 獲得動詞 buy, get, find, steal, order, catch, earn, grab, fetch, gain, pick, …

上記の久野・高見（2005）による分析は、二重目的語構文に出現する動詞を異なった2つの与格構文に表れる動詞として区分し、その相違を示すのに認知的説明を用いてうまく説明していると言える。²

3. 与格構文に関する習得度を測る実験

3.1 実験の手順

この節では、与格交替に関する文法の習得の実験調査をどのように行なったかを説明する。以下に手順を示す。（実際に実験に使った資料についてはこの論文の最後に掲載する。）

時期 2010年11月

対象 名古屋外国語大学外国語学部英米語学科

1年と2年の英語購読6クラスにおける履修生 計135名

実験の手順

Step 1 授業において、二重目的語構文から与格構文への交替における前置詞の選択のテストを行う。その際、その時点で各学生が持っているTOEICの最高点を提示させる。

Step 2 終了したテストに対して答え合わせを行なう。学生同士がテスト用紙を交換して解答を確認する。

Step 3 久野・高見（2005）の与格交替に関する認知的分析を学生に紹介する。まず、二重目的語構文に現れる動詞はgive型動詞、あるいは

はbuy型動詞に選択できること、そしてその2種類の動詞群のそれぞれの特徴を学生に説明する。

- Step 4 Step 1で行なったような前置詞の選択のテストを再度行なう。Step 1で使用した同じ問題文を使用するが、新たに別の10の動詞を用いた問題文を加える。また、問題文の順序を変え、学生のStep 1における解答チェックがStep 4のテストにできる限り影響しないように考慮する。
- Step 5 Step 4で終了したテストに対して、再度学生同士がテスト用紙を交換して解答を確認する。

また、実験で対象にした与格交替に関連する動詞を以下に示す。

Step 1 -> Step 2で習得を比較した動詞

give型動詞（12種類） give, pass, lend, sell, tell, mail, throw, read,
write, bring, teach, forward

buy型動詞（8種類） make, build, cook, knit, buy, find, bake, arrange

Step 4 -> Step 5の段階で追加した動詞

give型動詞（4種類） pay, ship, serve, pitch

buy型動詞（6種類） sew, get, steal, order, grab, pick

3.2 実験の処理

実験時の学生の英語の運用能力を知るために提示させたTOEICのスコアに基づいて、学生を以下の3グループに分け結果を考察した。また、TOEICの点数を提示していないデータなど、不備のあるデータはすべて除外した結果、丁度以下の100人分のデータを得られた。

Group 1 469点以下 (39名)

Group 2 470点～599点 (43名)

Group 3 600点以上 (18名) 計 100名

4. 実験結果

以下に今回の実験の結果を示した。表の中の記号は二重目的語構文から与格構文に交替する際の前置詞の選択に対して以下の内容を表している。

- CC: Step 1-2 と Step 4-5 の両方で前置詞が正解
 WC: Step 1-2 では前置詞が誤り Step4-5 では前置詞が正解
 CW: Step 1-2 では前置詞が正解 Step4-5 では前置詞が誤り
 WW: Step 1-2 と Step4-5 の両方で前置詞が誤り

結果では特に WC に注目した。WC は Step 1 から Step 2 の段階において前置詞の選択が誤っていたが、Step 4 から Step 5 の段階では前置詞の選択を正しく行なったカテゴリーである。

Give型動詞（12種類）の結果

Group 1

TOEIC 469 点以下（39 名）

	give	pass	lend	sell	tell	mail	throw	read	write	bring	teach	forward
CC	35	33	26	22	30	33	27	14	25	17	24	34
WC	3	4	10	7	6	5	8	13	3	10	4	5
CW	1	1	3	9	3	1	3	9	7	5	8	0
WW	0	1	0	1	0	0	1	3	4	7	3	0

Group 2

TOEIC 470 点～599 点（43 名）

	give	pass	lend	sell	tell	mail	throw	read	write	bring	teach	forward
CC	37	37	30	28	40	34	38	20	32	21	36	35
WC	4	4	10	10	1	8	3	14	8	8	2	7
CW	2	2	1	4	2	1	2	6	3	7	4	0
WW	0	0	2	1	0	0	0	3	0	7	1	1

Group 3 TOEIC 600点以上 (18名)

	give	pass	lend	sell	tell	mail	throw	read	write	bring	teach	forward
CC	17	15	10	16	17	16	16	7	17	11	13	18
WC	1	0	5	1	1	2	2	8	0	3	3	0
CW	0	3	2	1	0	0	0	1	1	1	1	0
WW	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	1	0

Total (全100名)

	give	pass	lend	sell	tell	mail	throw	read	write	bring	teach	forward
CC	89	85	66	66	87	83	81	41	74	49	73	87
WC	8	8	25	18	8	15	13	35	11	21	9	12
CW	3	6	6	14	5	2	5	16	11	13	13	0
WW	0	1	3	2	0	0	1	8	4	17	5	1

Buy型動詞 (8種類) の結果

Group 1 TOEIC 469点以下 (39名)

	make	build	cook	knit	buy	find	bake	arrange
CC	34	26	31	32	21	21	28	27
WC	3	5	5	4	13	13	4	9
CW	2	3	2	1	3	1	4	2
WW	0	5	1	2	2	4	3	1

Group 2 TOEIC 470点～599点 (43名)

	make	build	cook	knit	buy	find	bake	arrange
CC	41	33	38	37	27	24	39	34
WC	2	6	3	4	12	14	2	6
CW	0	2	2	2	2	2	2	0
WW	0	2	0	0	2	3	0	3

Group 3 TOEIC 600点以上 (18名)

	make	build	cook	knit	buy	find	bake	arrange
CC	16	14	15	16	12	10	14	17
WC	2	3	0	1	3	3	3	1
CW	0	1	2	0	1	4	0	0
WW	0	0	1	1	2	1	1	0

Total (全100名)

	make	build	cook	knit	buy	find	bake	arrange
CC	91	73	84	85	60	55	81	78
WC	7	14	8	9	28	30	9	16
CW	2	6	6	3	6	7	6	2
WW	0	7	2	3	6	8	4	4

Step 4-5で追加した動詞の結果 (C = 正、W = 誤)

Group 1 TOEIC 469点以下 (39名)

	pay	ship	serve	pitch	sew	get	steal	order	grab	pick
C	30	38	29	37	35	31	33	25	27	22
W	9	1	10	2	4	8	6	14	12	7

Group 2 TOEIC 470点～599点 (43名)

	pay	ship	serve	pitch	sew	get	steal	order	grab	Pick
C	33	40	34	41	41	33	40	28	26	34
W	10	3	9	2	2	10	3	15	17	9

Group 3 TOEIC 600点以上 (18名)

	pay	ship	serve	pitch	sew	get	steal	order	grab	pick
C	16	18	15	18	18	16	18	14	14	15
W	2	0	3	0	0	2	0	4	4	3

Total

(全100名)

	pay	ship	serve	pitch	sew	get	steal	order	grab	pick
C	79	96	78	96	94	80	91	67	67	81
W	21	4	22	4	6	20	9	33	33	19

5. 実験結果の分析

5.1 全体について

全体としては、「WCの数値がCWやWWの数値より高い」という望ましい形になった。つまり、英語学習者に対して「久野・高見の認知的説明が与格交替における前置詞の習得を確実に助けることができる」という結果が得られたと言える。しかし、この結果は単純に肯定的に捉えられない。動詞によって習得の差が見られるからである。WCの数値よりもCWの数値が高い動詞、WCとCWの数値に差がない動詞について、なぜこのような結果が出たのか動詞の意味解釈も含め、さらに詳しい検証が必要である。

5.2 TOEIC のスコア別グループの結果に違いはあるのか

Group 1とGroup 2の結果については大きな差はないようである。Group 3については、一部の動詞を除いて実験前にすでに前置詞の選択について多くを正確に習得していた可能性が考えられる。

5.3 注目すべき動詞

結果の中で注目すべき動詞としては以下の動詞が挙げられる。

give型動詞 lend, sell, read, bring, teach

buy型動詞 buy, find, order, grab

give型動詞の中のlend、read、sell、bringについては、Step 1-2における正解率がかなり低かったが、習得度は上がったと捉えられる。teachについては不正解から正解になった数よりも、Step 1-2では正解だったのにStep 4-5では不正解だった数の数が多いという結果が示された。これは「教える」という意味が「誰かの為」という意味と強く結びついてしまい、toではな

く for を選択してしまう可能性があることが考えられる。

一方、buy 型動詞である buy と find についても Step 1-2 における正解率がかなり低かったが、習得度は上がったと捉えられる。また、order と grab は Step 4-5 の段階で追加した動詞だが、意味把握が困難であるのか正答率が低かった。前置詞の選択を正しく習得させるためには、まず実験の前に動詞の意味を正確に把握させることが必要となってくる。

5.4 実験手順に対する改善点

今回の実験に対して以下の点について改善が求められる。

a. 実験対象者の数

今回はパイロットスタディという形で実験に望み 100 人から結果が得られた。今後さらに多くの人数を対象にして実験を行い、久野・高見の説明が確実に英語学習において高い効果があるのかしっかりと確認したい。

b. 対象とした動詞の数と種類

この実験では、学生が前置詞に対する習得が不確実であっても、少なくとも意味が把握できていると予想される動詞を対象にして行なった。give 型動詞に対しては 12、buy 型動詞の動詞に対しては 8 の動詞を対象にしたが、それぞれの動詞で 10 という均等の数を扱った方が望ましいだろう。また追加の動詞についても前置詞選択をする前に動詞の意味が把握されているかどうかの心配もある。動詞の意味が前置詞の正しい選択に繋がるので実験前に動詞の意味をしっかりと把握させておく必要性を感じた。

c. 主語と目的語について

質問文では全て固有名詞の John を主語、Mary を目的語として使用した。これは主語と目的語を多様な名詞句を使って変化させると、実験に影響があると考えたからである。実験に対してこれらの名詞句より相応しい名詞句があるかどうか今後検討したい。

d. 実験の流れ

Step 1-2 から Step 4-5 までのどのくらい時間を空けるべきか、実験の流れについて考える必要がある。実験では Step 1-2、Step 4-5 共に全て同じ授業内で続けて行なった。Step 1-2 から Step 4-5 まで 1 週間ぐらいの時間を空けて習得率を調べた方が学習効果をはっきりと把握できる可能性が高い。

e. 実験中の解答の確認 (Step 2, Step 5) の必要性

実験中に自己採点を 2 度行なったが、自己採点は実験中には行なわない、あるいは Step 2 については実験者が採点し、Step 5 のみを自己採点させた方が、前置詞の習得の結果をより正確に観察できる可能性が高い。

f. 学生の英語能力の把握について

学生にこれまで獲得した TOEIC の最高点の申告をさせ実験を行なったが、その TOEIC がいつ受けたものか把握しなかったことを反省している。また、その申告による最高点が正確なものかどうか疑問が残る。実験の直前に 15 分ほどで英語能力を把握できる実験教材が存在しているとも聞くので、そういう実験教材を使用し、実験の直前に学生の正確な英語能力を把握してから実験に望むのが相応しいだろう。

6. まとめ

本研究は久野・高見（2005）による認知言語学的分析と英語教育の関係に焦点を当て、久野・高見による説明が英語学習者の与格交替における前置詞の習得をどのように助けるか、パイロットスタディとして行なった実験の手順と結果をまとめた。

実験結果として、久野・高見の認知的アプローチが英語学習者の与格交替における前置詞の習得を助けるという結果が概ね得られた。この結果、英語学習の中で与格交替に関して一つずつの前置詞を暗記させるという方法を取らなくても、この久野・高見の説明を使えば前置詞を正確に習得さ

せることができると言える。

しかしながら、実験結果と考察で述べたように、意味解釈の問題もあり動詞によって習得の差があることも観察できた。そして実験の手順においてもいろいろな問題点が存在していることが把握できた。

今後のこの実験を英語を教える中でどう生かすかであるが、久野・高見の分析は英語学習において確実な習得を望めるため、与格交替を教える場合に久野・高見の説明を積極的に取り入れていきたい。また、実験の手順に対する反省を生かし、英文法に関する個別の習得を効果的に助ける方法を継続的に探求していきたい。

実験資料（実際に使った印刷物は9ページで構成されている。）

Page 1

"For"? or "To"?

これから皆さんの英文法の知識の調査を行います。この調査が、皆さんがこれから受ける TOEIC, TOEFL, 英検のスコアアップに大きく役立てることを願っています。真面目にしかしリラックスしながら受けて下さい。ご協力どうぞよろしくをお願いします。

この調査では、皆さんが英語の動詞の意味をどう捉えているかということを調査します。次の段階を踏まえて、調査及び講義を行っていきます。

- (1) まず皆さんにある動詞句表現に関する現在の自分の知識を確かめてもらいます。
- (2) その後、どのようにすれば動詞と前置詞の関係が明らかになるか説明します。
- (3) その上で、皆さんの動詞に対する知識がどう変化したのかを観察します。
- (4) この知識を今後の英語学習に生かして下さい。

上にあなたの現在のTOEICの最高点を書いて下さい。

上にあなたの現在のTOEFLの最高点を書いて下さい。

[Check your knowledge 1]**Fill the blanks with either "to" or "for."**

空欄に to か for を入れてみましょう。

- (1) John gave Mary a letter. = John gave a letter () Mary.
- (2) John made Mary a table. = John made a table () Mary.
- (3) John passed Mary salt. = John passed salt () Mary.
- (4) John lent Mary a suitcase. = John lent a suitcase () Mary.
- (5) John sold Mary a book. = John sold a book () Mary.
- (6) John built Mary a house. = John built a house () Mary.
- (7) John cooked Mary soup. = John cooked soup () Mary.
- (8) John told Mary a story. = John told a story () Mary.
- (9) John knitted Mary a sweater. = John knitted a sweater () Mary.
- (10) John bought Mary a bag. = John bought a bag () Mary.
- (11) John mailed Mary a letter. = John mailed a letter () Mary.
- (12) John found Mary a house. = John found a house () Mary.
- (13) John threw Mary a ball. = John threw a ball () Mary.
- (14) John baked Mary cookies. = John baked cookies () Mary.
- (15) John read Mary a story. = John read a story () Mary.
- (16) John wrote Mary a letter. = John wrote a letter () Mary.
- (17) John brought Mary a book. = John brought a book () Mary.
- (18) John taught Mary English. = John taught English () Mary.
- (19) John forwarded Mary an email. = John forwarded an email () Mary.
- (20) John arranged Mary a party. = John arranged a party () Mary.

[Check your knowledge 1] **Check your answers.** 答え合わせをしましょう。

- (1) John gave Mary a letter. = John gave a letter (to) Mary.
(2) John made Mary a table. = John made a table (for) Mary.
(3) John passed Mary salt. = John passed salt (to) Mary.
(4) John lent Mary a suitcase. = John lent a suitcase (to) Mary.
(5) John sold Mary a book. = John sold a book (to) Mary.
(6) John built Mary a house. = John built a house (for) Mary.
(7) John cooked Mary soup. = John cooked soup (for) Mary.
(8) John told Mary a story. = John told a story (to) Mary.
(9) John knitted Mary a sweater. = John knitted a sweater (for) Mary.
(10) John bought Mary a bag. = John bought a bag (for) Mary.
(11) John mailed Mary a letter. = John mailed a letter (to) Mary.
(12) John found Mary a house. = John found a house (for) Mary.
(13) John threw Mary a ball. = John threw a ball (to) Mary.
(14) John baked Mary cookies. = John baked cookies (for) Mary.
(15) John read Mary a story. = John read a story (to) Mary.
(16) John wrote Mary a letter. = John wrote a letter (to) Mary.
(17) John brought Mary a book. = John brought a book (to) Mary.
(18) John taught Mary English. = John taught English (to) Mary.
(19) John forwarded Mary an email. = John forwarded an email (to) Mary.
(20) John arranged Mary a party. = John arranged a party (for) Mary.

giveのような動詞と、buyのような動詞は、テストにあったように、以下の2つの形で使うことができますね。例を観察してみましょう。(久野・高見 2005:115-118)

- (1) a. Mr. Smith gave us a book.
b. Mr. Smith gave a book to us.
- (2) a. John bought Mary a bag.
b. John bought a bag for Mary.

中学・高校では(1)が**give型**、(2)が**buy型**と呼ばれ、動詞が書き換えの際、toかforのどちらかをとるか、覚えることを強いられます。しかし、言語学者の久野氏と高見氏の説明によると、これらの動詞は、基本的な意味が異なるために、異なる前置詞をとるわけですから、動詞の基本的意味を理解すれば、それぞれの動詞がtoかforのどちらかをとるか、盲目的に暗記する必要はありません。では、両タイプの動詞はどのような点で異なるのでしょうか。

まず、**give型**の動詞は、ある対象物(Z)を人(X)が誰か(Y)に移動させることを表す「**移動動詞**」です。

give型の動詞、たとえば、give, lend, pass, pay, sell, send, mail, throw, tell, read, bring, take, carry, promiseなどを考えてみると、ある人が誰かに何かをあげたり、貸したり、渡したり、支払ったり、売ったり、送ったり、郵送したり、投げたり、言ったり、読んだり、持って来たり、持って行ったり、運んだり、約束したりなど、ある人が何かを誰かに移動させるようにしています。

つまり、**give型**の動詞は、これら3つの要素を必要とする動詞であり、このような動詞を「**3項動詞**」と呼びます。そして、ある対象物(Z)が、人(X)から誰か(Y)へ移動することを表し、誰か(Y)が対象物の移動先になるので、前置詞toをとるわけです。

一方、**buy型**の動詞は、ある人がある行為を行うことを示す「**行為動詞**」です。そのため、3つの要素を必ず必要とせず、(3)にあるように、主語と目的語だけで適切な文になります。

- (3) a. John bought a bag.
b. John cooked fish.
c. John built a house.

従って、**give型**の動詞が「**三項動詞**」であるのに対し、**buy型**の動詞は「**二項動詞**」になります。ただ、私達の社会では、例えば、ある人がかばんを買うのが、自分のためだけでなく誰か人にあげるためであったり、ある人が料理するのが、誰かに食べてもらうためであったり、家を建てるのが、他の人のためであったりする場合があります。その時、受益者はforで表されるため、前置詞はforをとることになります。

まとめ (久野・高見 2005:119)

give 型動詞 = 三項動詞 = **to** が付く構文

- a. OK John gave Mary a book.
- b. X John gave to Mary. X John gave a book.
- c. OK John gave a book to Mary.

buy 型動詞 = 二項動詞 = **for** が付く構文

- a, OK John bought Mary a book.
- b, OK John bought a book.
- c, OK John bought a book for Mary,

give 型動詞

授与動詞 give, lend, pass, pay, sell, serve, lease, …

送付動詞 send, mail, ship, forward, post, …

投与動詞 throw, pitch, hurl, kick, toss, …

伝達動詞 tell, read, write, telephone, teach, …

運搬動詞 bring, take, carry, drag, …

将来の所有動詞 promise, assign, leave, …

buy 型動詞

創造動詞 make, build, cook, knit, bake, fix, pour, sew, arrange, …

獲得動詞 buy, get, find, steal, order, catch, earn, grab, fetch, gain, pick, …

上にもう一度あなたの現在のTOEICの最高点を書いて下さい。

上にもう一度あなたの現在のTOEFLの最高点を書いて下さい。

[Check your knowledge again] Fill the blanks with either "to" or "for."

では動詞の意味を考えて、もう一度以下のテストを受けてみましょう。

- (1) John paid Mary money. = John paid money () Mary.
- (2) John arranged Mary a party. = John arranged a party () Mary.
- (3) John sewed Mary a dress. = John sewed a dress () Mary.
- (4) John forwarded Mary an email. = John forwarded an email () Mary.
- (5) John shipped Mary a book. = John shipped a book () Mary
- (6) John taught Mary English. = John taught English () Mary.
- (7) John got Mary a watch. = John got a watch () Mary.
- (8) John brought Mary a book. = John brought a book () Mary.
- (9) John stole Mary a ring. = John stole a ring () Mary.
- (10) John wrote Mary a letter. = John wrote a letter () Mary.
- (11) John ordered Mary the soup. = John ordered the soup () Mary.
- (12) John read Mary a story. = John read a story () Mary.
- (13) John grabbed Mary a ball. = John grabbed a ball () Mary.
- (14) John baked Mary cookies. = John baked cookies () Mary.
- (15) John served Mary a cup of tea. = John served a cup of tea () Mary.
- (16) John threw Mary a ball. = John threw a ball () Mary.
- (17) John picked Mary a flower. = John picked a flower () Mary.
- (18) John found Mary a house. = John found a house () Mary.
- (19) John pitched Mary a ball. = John pitched a ball () Mary.

- (20) John mailed Mary a letter. = John mailed a letter () Mary.
(21) John bought Mary a bag. = John bought a bag () Mary.
(22) John knitted Mary a sweater. = John knitted a sweater () Mary.
(23) John told Mary a story. = John told a story () Mary.
(24) John cooked Mary soup. = John cooked soup () Mary.
(25) John built Mary a house. = John built a house () Mary.
(26) John sold Mary a book. = John sold a book () Mary.
(27) John lent Mary a suitcase. = John lent a suitcase () Mary.
(28) John passed Mary salt. = John passed salt () Mary.
(29) John made Mary a table. = John made a table () Mary.
(30) John gave Mary a letter. = John gave a letter () Mary.

Page 8-9 Step 5

[Check your knowledge again] Check your answers. 答え合わせをしましょう。

- (1) John paid Mary money. = John paid money (to) Mary.
(2) John arranged Mary a party. = John arranged a party (for) Mary.
(3) John sewed Mary a dress. = John sewed a dress (for) Mary.
(4) John forwarded Mary an email. = John forwarded an email (to) Mary.
(5) John shipped Mary a book. = John shipped a book (to) Mary.
(6) John taught Mary English. = John taught English (to) Mary.
(7) John got Mary a watch. = John got a watch (for) Mary.
(8) John brought Mary a book. = John brought a book (to) Mary.
(9) John stole Mary a ring. = John stole a ring (for) Mary.
(10) John wrote Mary a letter. = John wrote a letter (to) Mary.
(11) John ordered Mary the soup. = John ordered the soup (for) Mary.

- (12) John read Mary a story. = John read a story (to) Mary.
- (13) John grabbed Mary a ball. = John grab a ball (for) Mary.
- (14) John baked Mary cookies. = John baked cookies (for) Mary.
- (15) John served Mary a cup of tea. = John served a cup of tea (to) Mary.
- (16) John threw Mary a ball. = John threw a ball (to) Mary.
- (17) John picked Mary a flower. = John picked a flower (for) Mary.
- (18) John found Mary a house. = John found a house (for) Mary.
- (19) John pitched Mary a ball. = John pitched a ball (to) Mary.
- (20) John mailed Mary a letter. = John mailed a letter (to) Mary.
- (21) John bought Mary a bag. = John bought a bag (for) Mary.
- (22) John knitted Mary a sweater. = John knitted a sweater (for) Mary.
- (23) John told Mary a story. = John told a story (to) Mary.
- (24) John cooked Mary soup. = John cooked soup (for) Mary.
- (25) John built Mary a house. = John built a house (for) Mary.
- (26) John sold Mary a book. = John sold a book (to) Mary.
- (27) John lent Mary a suitcase. = John lent a suitcase (to) Mary.
- (28) John passed Mary salt. = John passed salt (to) Mary.
- (29) John made Mary a table. = John made a table (for) Mary.
- (30) John gave Mary a letter. = John gave a letter (to) Mary.

注

1. この論文における議論は2011年6月4日に名城大学で行なわれた日本英語教育学会（JACET）中部大会における発表内容をまとめたものである。
2. この点に関して、実際にはこのように三項動詞と二項動詞は単純に2つのグループに分類できるというわけではなく、この分類に関して幾つかの問題点が観察できることを高橋（2011）が議論している。

参考文献

- Baker, Mark. 1988. *Incorporation: A theory of grammatical function changing*. Chicago. University of Chicago Press.
- Goldberg, Adele. 1992. The inherent semantics of argument structure: The case of the English ditransitive construction. *Cognitive Linguistics* 2: 37-74.
- Gropen, Jess *et al.* 1989. The learnability and acquisition of the English dative alternation. *Language* 65: 203-257.
- 岸本秀樹. 2001. 「二重目的語構文」影山太郎（編）『動詞の意味と構文』127-153. 大修館.
- 久野暲・高見健一. 2005. 『謎解きの英文法：文の意味』くろしお出版.
- Larson, Richard. 1988. On the double object construction. *Linguistic Inquiry* 19, 335-391.
- 高橋直子. 2011. 「英語の二重目的語構文と与格構文に関する一考察」『名古屋外国語大学紀要』第41号 109-126.